

土坑二〇〇

(19) ・「あ□□くら

・「五月三日

(206)×24×3 051

(20) 「五月三日」

181×20×3 051

溝一二二

(21) 「く七月廿三日

上安田村

六左衛門」

64×24×4 032

土坑一七九出土の木簡は(18)を除き、完形のものはずべて下端を尖らせた〇五一型式で、物品名らしき文字を書くが、何の名称なのかは未詳。

なお釈文は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の佐藤圭氏のご教示を得た。

9 関係文献

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『年報一〇』(一九九六年)

(本多達哉・河村健史)

石川・観法寺遺跡
かんぼうじ

1 所在地 石川県金沢市観法寺町

2 調査期間 一九九九年(平11) 五月～八月

3 発掘機関 財団法人石川県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 松浦郁乃・荒木麻理子

5 遺跡の種類 集落及び道路跡

6 遺跡の年代 三世紀・八世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

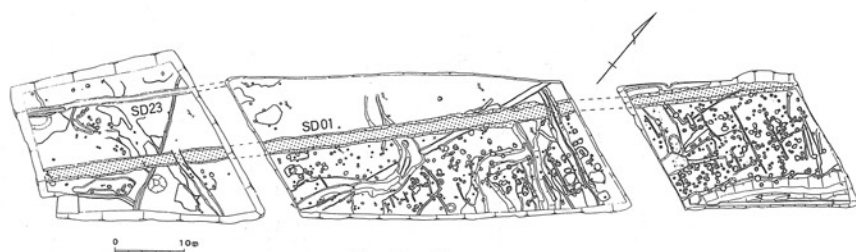
本遺跡は、金沢市の北東部に位置する。北西方向には河北潟が広がり、北は能登、東は低い丘陵地帯を越えると富山県となる。後背



(金 沢)

丘陵上には観法寺古墳群、その谷部には中世の観法寺谷遺跡が存在する。周辺の同時期の遺跡としては、北方約八〇〇mに七世紀末～八世紀前半の今町A遺跡が存在する。

今回は、約二五〇〇m²について調査を行なった。そ



遺構図

が多く、墨書土器と思われる個体も数点見られたが、いずれも判読不能であった。また、転用硯も数点確認できた。木製品は、建築部

の結果、古墳時代初頭の土器及び玉造関係の遺物が出土した溝、奈良時代とみられる掘立柱建物や井戸、ほぼ平行して走る二条の溝を確認した。うち一条は、調査区を貫通するように、約二〇〇mにわたって確認され、SD〇一とした。幅約二m深さ〇・五〜〇・七mを測り、逆台形の断面形態を呈する。SD二三としたもう一方の溝は約二〇m確認され、幅約一m深さ〇・五mを測り、SD〇一と同様の断面形態であった。この二条の溝の性格としては、道路遺構の側溝部分と考えられる。道路幅は側溝心々距離にして約九mを測る。路面に硬化部分は認められなかった。その規模や地理的な条件、埋没時期から北陸道駅路の可能性が考えられる。

木簡は、SD〇一から出土した。この溝出土の土器類は、八世紀末頃の須恵器

材とみられるものがほとんどであった。

8 木簡の釈文・内容

(1) 加志皮急

(126) × (27) × 7 081

上下と左側面を欠損している。墨書は片面のみに見られ、四文字ともに墨痕は非常に明瞭である。「加志皮」については、人名とも思われる。

9 関係文献

(財)石川県埋蔵文化財センター『石川県埋蔵文化財情報』三(二〇〇〇年)
(松浦郁乃)

